

「JICA 草の根技術協力事業（草の根協力支援型）Ⅱ：トンガ王国における歯科保健の為のプロジェクト」

南太平洋医療隊 ○河村康二 河村サユリ

<http://spmt.jp/>

E-Mail:Kawamura@pb3.so-net.ne.jp

【目的】

1998年よりトンガ王国において南太平洋医療隊は歯科ボランティア活動を行っている。2006年5月より JICA 草の根技術協力事業（草の根協力支援型）を実施し、以後3年間は JICA との共同事業の形でボランティア活動を行い現在進行中である。現在まで私達の活動は徐々ではあるが確実に進み、2007年4月には学校保健・フッ化物洗口を行う施設はトンガタブ、ハーパイ諸島合わせて幼稚園7施設、小学校は52施設約8500名の児童を対象に実施するようになった。現地ではワークショップ、歯の健康フェスティバル等を開催し広がりを得られている。トンガ予防歯科チームは一歩づつではあるが、自立の道を歩みつつある。

JICA との共同事業の形を取るため、JICA 草の根技術協力事業（草の根協力支援型）提案書を主に PCM 手法を用い作成した。JICA との草の根協力支援型技術協力事業が採択されてから今日までのこの経過を報告し、草の根協力支援事業に応募する JAICOH の会員、他のボランティア団体がもっとスムーズに実施される運びになるような布石になればと考え今回発表を行うと考える。

【対象及び方法】

JICA 草の根技術協力事業（草の根協力支援型）提案書を作成に際し、主に FASID（国際開発高等教育機構）の PCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）手法を用いている。プロジェクトの計画立案・実施・評価という一連のサイクルを、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）とよばれるプロジェクト概要表を用いて、PDM に参加型のプロジェクト計画を目標、活動、成果、指標、投入等を考案作成し計画を立案する。その後事業を3年間各年度、四半期毎に実施し、四半期毎に事業の報告・評価をモニタリング・評価（Monitoring & Evaluation）手法に基づき、モニタリングシート表を作成し事業報告を行う。PCM手法では実施に合わせ活動、成果、指標等は発展的に変えても良い。

プロジェクト の要約	指標	入手手段	外部条件
上位目標			
プロジェクト 目標			
成果			
活動	投入		前提条件

【結果及び考察】

JICA は草の根協力支援型技術協力事業を新規提案時の PDM 作成が、平成 19 年度第一回草の根技協パートナー型募集から義務付けられており、PCM 手法とモニタリング・評価手法が不可欠である。この事業は国民のボランティア団体がボランティアを行う時、JICA との共同事業で行う形で参加できる。従ってこの手法を熟知することは必須である。1998 年から南太平洋医療隊の活動を基に PDM の作成には JICA の担当者と団体の構成員とで共同で作成した。また具体的な活動、それに対する成果を予測し、裏付けられる指標等は作成する。事業が実施しモニタリング・評価手法に基づき評価し見直しを行い、螺旋状のサイクルでより良いボランティア活動に発展させより高い上位目標達することが理想である。

【謝辞】

南太平洋医療隊の活動にご支援・ご協力をいただいた日本大学松戸歯学部社会口腔保健講座、日本大学松戸歯学部国際保健部、トンガ健康省国立 VAIOLA 病院、南太平洋医療隊員に感謝いたします。